

財政のゆとり

けいじょうしゅう し ひ りつ

経常収支比率…84.5%

経常収支比率は1.8ポイント上昇しました(昨年度82.7%)が、これは国民健康保険特別会計や老人保健特別会計への繰出金が増加したほか、特に下水道事業会計への繰出金が増加したことが要因です。全国自治体の現在の財政状況の中では、おおむね適正な状況ととらえられます。

経常収支比率とは、経常的に支出する経費(経常的経費)のために「経常一般財源」(市税・地方交付税など)がどれだけ消費されたかを示す比率です。経常収支比率が高ければ、経常一般財源の使途が固定していることになり、財政の硬直化が進んでいることを示します。逆にこの比率が低ければ、ほかの使途に回せることになり、余裕のある財政状況にあるといえます。

行政の効率性

人件費・物件費等

…10万6,256円

人口1人当たりの人件費・物件費等は1万円余り減少しました。合併の効果が表れてきた結果と考えられます。今後とも行政改革を進め、より効率的な行政運営を行っていききたいと思います。

事務(処理)の効率性

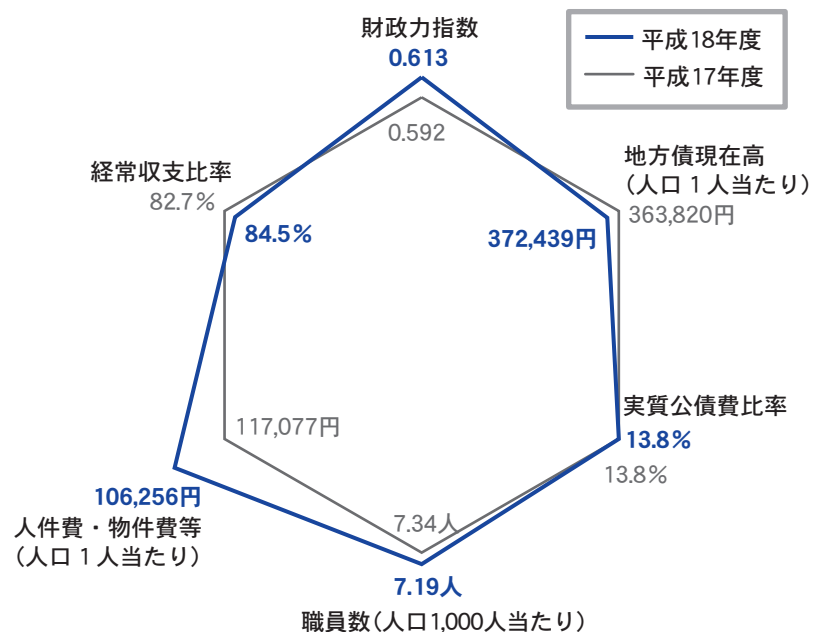
職員数…7.19人

人口1,000人当たりの職員数は、7.19人となりました。全国的に公務員を減らす努力が求められており、地方自治体も定員の削減を行っていかねればなりません。安曇野市では、合併による行政管理部門の統合等とも相まって職員数の減少が進んでいます。



「財政指標」でみる

市の財政状況



決算状況をまとめる中では、各種の財政指標等の算定も行っています。グラフは、平成17年度を基準として、平成18年度の各指標の変化を表していますが、グラフが外側に広がった方が、財政状況としては好転したと見ることができます。

総 評

安曇野市としては、2回目の決算となりましたが、合併の効果や行政改革による行政効率化の一端が表れつつあります。

一方、経常収支比率の上昇の原因にみるように、他会計への繰出金が増加しています。これはその会計の必要経費が増大してきているためです。

今後の財政運営にあたっては、安曇野市の全部の会計に目を向けながら、総合的な調整を行っていききたいと思います。

借金の割合

じっしつ こうさい ひ ひ りつ

実質公債費比率…13.8%

実質公債費比率は、地方債の元利償還金に加え、「地方債の元利償還金に準ずるもの(準元利償還金)」が「標準財政規模」に占める割合を表すもので、財政構造の弾力性を公債費等という義務的経費からみるものです。18%以上になると地方債の借入れに県の許可を要するようになり、25%以上になると地方債の発行が一部制限されます。昨年度と同値であり、18%にも余裕があります。

市の借金

ち ほう さい ざん だか

地方債残高…37万2,439円

地方債とは、地方自治体の借金です。一人当たりの地方債現在高(借金残高)は3,600円ほど増加しました。これは、主に地域振興基金積立のために合併特例債を12億円余り借り入れたことと、安曇野地区広域排水事業国営事業負担金の支払いに12億円弱を借り入れたためです。地域振興基金は地域振興のための積立(貯金)であり、広域排水事業は長期的な事業の二括精算に基づくもので、特殊な事情によります。地方債現在高としては、若干増えました。特に将来の財政状況を圧迫させるほどではありません。

財政の体力

ざい せい りよく し すう

財政力指数…0.613

財政力指数は、地方公共団体の財政力の強弱を示す指数です。地方交付税の基準財政収入額、基準財政需要額から計算しますが、「1」以下であれば、その不足部分は地方交付税が交付され、「1」以上であれば、地方交付税は不交付となり、自前の財源だけでいわゆる「標準的行政サービス」を行うことができると判定されます。県内19市の中の順位は8番目でした。なお、19市の平均は0.592なので、平均以上の財政力を持っていることになります。